

## 医政メモQ&A

Q：保険医定年制について 筆者の意見を聞きたい？

A：以前から私は、企業戦士や公務員などの一律線引き定年制に疑問を感じています。現実には定年を迎える大多数の方は未だ身体的精神的に充実し、仕事への熱意、自信も喪失していない。家庭においても、まだまだ頼りにされる状況で退職の年齢に達する。昨今の少子化で近い将来訪れるだろう超高齢社会では、少数の若者が多数の高齢者を支えねばなりません。その時は否応なく定年を遅らせるか廃止せざるを得ないと思います。そして気力体力に自信がある高齢者の方々に定年を怖れる事なく仕事をして頂く事を社会が要求するでしょう。ふりかえって医療の世界では患者さんと医師の関係は長年蓄積された信頼で結ばれ、信者と神様のそれに似ている。私事ながら父は内科開業医でしたが、64歳で脳梗塞に倒れ70歳で他界しました。その間も片側運動麻痺が遺り往年の面影など全くない父をたよって毎日何人かの患者さんが亡くなる寸前まで診察室にみえられました。日夜献身的に努力されている医師には必ず慕い信頼をよせる人々がいます。この頼られている実感こそ、我々医師にとって生きがいであり情熱の源です。経済的側面からみても高齢の医師が力のかぎり真摯に医療を続けることは一緒に働く複数の方々の生計をも潤し老人が長く税金を納める側にいる事は、国家にとって誠に有難いことだと思います。ただ医師の仕事は生易しいことでなく他の職種に況して非常な責任と義務が求められます。患者さんの権利意識が弱者の論理とかで、強くなる一方ですから、これは将来とも厳しく恐ろしく嵐のようなものと覚悟すべきでしょう。したがって医師はリタイアを決断する、その時機の見極めが難しくしかも大切な事だと考えます。永々と築いてきた

地域の人々との信頼関係と自らの誇りに傷がつく事が最も危惧されるからです。小泉厚生大臣も国会で答弁していますが、結論としましては、法令などで線を引かず、今後とも医師の定年制は自ら決めるべきものと考えます。

Q：レセプト開示について意見を聞きたい。

A：患者さんが保険者に申請すれば、かかりつけ医が了解の上、レセプト開示を認めるとの通達が厚生省から出ました。この権利の乱用は誠に恐ろしい事で、マジョリティー（患者さん即ち国民全て）のマイノリティー（医師）へのいじめにつながります。しかもカルテは改ざんする余地があるのでレセプト開示を求めるとのこと。医師への不信も極まりとの思いがする。誠心誠意尽した結果、レセプト開示要求。どこか不正をみつけないとの意志を感じる。救われない。診療報酬はこの20年間殆ど据え置き。無関係に経費は上昇。それでも患者さんに信頼され感謝されていると思えばこそ、頑張れる。疑問があれば直接聞いてくれればよかったのに、あれほどドインフォームド・コンセントもしたのに…憤りと、税務調査や医療監視とは比較にならないショックを感じるだろう。その開示要求が軽い好奇心からか、何か根拠があって強い不信感をもった結果の挙なのか、色々考え不眠になりそう。かかりつけ医は開示拒否もできるというが、さすれば、なおさら不信感をもたれるだろう。開示の結果、大事に至らずとしても、医師側には気持ちの中に黒いしこりが残る。こんな事が何回も繰り返されると人間不信に陥入ることも想像に難くない。医師の毎日は喜びも大きいですが、ストレスも甚だしい。開示通達は今迄にまして悪質なストレスを受ける種が播かれたようなもの。情報開示は時代の流れで、我々医師もおおらかに受けとめねばならないとの意見を聞

くと、私は被害妄想で「ねくら」だなど反省しますが、いずれにしても、この大きな流れの対策は、患者さんが窓口で支払う負担金にも気くばりし、疑問を感じていそうなことには、徹底したインフォームド・コンセントにつとめることでしょうか。

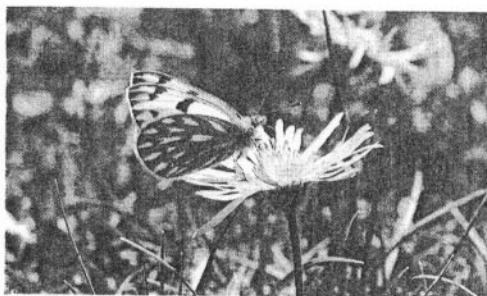
Q：池上直己 J.C.キャンベル著 日本の医療（中公新書発行）について

A：著書池上先生は慶応大学卒の医師で日医総研委員でもあります。我々医師は学問、技術、人間性など様々な面で自らを高めていかねばなりません。それは当然の事として医師会と「政」「官」との関わり、健康保険制度の変遷などについても学ばねばならないと思います。国民皆保険への道程。厚

生省との対峙、決裂、協調。武見太郎元会長の人となり。保険医総辞退への決断。医療費の分析、財源、将来の展望。過去から現在未来への様々な内容を著したこの書を全医師会員が読まれるよう勧めたい。その上でお互いの感想を語りあえば尚更意義深いものとなるでしょう。温故知新、1人ひとりの医師が医療をとりまく政治に関心を持つ事が、昨今の医師受難、苦境打開への一歩となるでしょう。その為にも読み易く、懇切丁寧な解説と相俟って価値ある書であると思います。この書を読んで自意識を高めましょう。なお医政委員会では読み合わせ、読後感を語りあう機会を設けています。

（医政部担当理事 羽田 克己）

「*Pontia callidice* クサツキ  
シロチョウ」



オリンパスOM4  
ズイコウマクロ90mm  
フジクローム100

北西ヒマラヤ、中印国境ラダックのラチュン峠にて撮影。5065mの峠を涸沢沿いに下った南斜面は、人頭大の岩がごろごろ転がっていて、人跡未踏の高山蝶の宝庫である。ふきすさぶみぞれの晴れ間に、蝶が天空に舞う。

菱川 法之（西区支部）